



放送大学  
岩手学習センター  
開設30周年  
記念誌

THE OPEN UNIVERSITY OF JAPAN,  
IWATE STUDY CENTER

SINCE 1993 > 2023

30<sup>th</sup>  
Anniversary

# 岩手学習センター開設30周年にあたって

(開設30周年記念式での挨拶)

岩手学習センター所長 西崎 滋

本日は放送大学岩手学習センターの開設30周年記念式にご出席いただき、誠にありがとうございます。

放送大学は、国の「放送大学学園法」に基づいて設立された放送大学学園が、40年前に設置した通信制の私立大学で、通常の通学制の大学とは異なり、放送授業を主体としたユニークな教育により、「学びたい人が、いつでも、どこでも、学べる開かれた大学」として高等教育の一翼を担ってまいりました。先月末、東京の学術総合センター―橋講堂で創立40周年記念式典を開催したところでございます。

さて、この岩手学習センターは、放送大学創立から10年後の、今から30年前に岩手ビデオ学習センターとして、岩手大学農学部附属植物園で産声をあげました。2000年には、岩手大学図書館との合築でこの建物に移り、現在に至っております。この間、岩手における生涯教育・生涯学習の拠点としての役割を果たしてまいりました。

お陰様でこれまでの入学者は2万人を越え、学部卒業生1286名、大学院修了者43名を数えるまでに至りました。これはひとえに、歴代の所長・客員教員・事務長ならびに職員の皆様のご尽力の賜と、心より感謝しております。

この10年間の学生数の動向を見ますと、最盛期の1100名を越える学生数には遠く及びませんが、学位取得に関わる学部全科履修生と大学院全科生はほぼ横ばいで、その他の種別により残念ながら100名ほど減少しています。

現在は、10代から80代にわたる750名ほどの学生が岩手学習センターに所属し、会社員、公務員、看護師、アルバイト・パート職員など多岐にわたる職業の方とその定年退職者が学んでいます。特筆すべきことは、昨年岩手学習センターとしては初めて、博士後期課程を修了し、博士(学術)の学位を授与された学生を送り出したことと、放送大学名誉学生の称号を授与された学生が5名となったことです。この5名については、顕彰記念額に氏名を刻んで、視聴学習室に掲げさせていただきます。後進の学生の励みになればと期待しております。

開設30周年にあたり、20周年以降の10年を振り返ってみたいと思います。東日本大震災の影響が大きかった初年度に所長を務められた、本日ご列席の齋藤徳美元所長からは、この8月に『「災害」とどう向き合うかを考える』と題してご講演いただき、在学生は「安全で・食足りて・心豊かな社会」の実現のために、学んだ知識を社会に役立ててほしい」との薫陶を受けました。その後の5年間につきましては、この直ぐ後に橋本良二前所長から思い出をお話しいただきます。前後いたしますが、最近の4年間と今後については私からお話しいたします。

この4年間はコロナ禍で始まり、その影響が未だに続いております。マスクの着用、手指の消毒や検温からはじまり、学生には学習センターの利用制限や開所時間の短縮、また職員にはいわゆる三密を避けるために在宅勤務を導入しました。最初の学期は面接授業を全て閉講としましたが、開講するようになって、定員を削減して新型コロナウイルスへの感染拡大防止に努めました。その影響は未だに続いていて、学習センターに足を運ぶ学生数は減ったままで、

面接授業の受講申請数も定員をなかなか満たすことがありません。

Webを利用した授業や単位認定試験の導入により、受講しやすくなった学生、受験しやすくなった学生がいる一方で、PC（パソコン）やインターネットの利用が大きな壁になっている学生もいます。学習センターの職員には後者の学生への支援が重要な業務となってきています。本日も列席いただいている岩永雅也学長の学長就任後に制定された放送大学『教学Vision2027』の基本理念「ひとりひとりに最適な学びを放送大学から」を実現するために学習センターの役割が問われているところがございます。

放送大学岩手学習センターは、岩手県内の高等教育機関で構成される「いわて高等教育コンソーシアム」、ならびに、高等教育機関、経済界・産業界、行政等で構成される「いわて高等教育地域連携プラットフォーム」の一員に名を連ねております。両組織の代表を務めていらっしゃいます、本日も列席の小川智岩手大学学長には、母体校として多大のご支援をいただくとともに、地域における高等教育機関の役割についてご教授いただいているところがございます。そのプラットフォームの1つの取り組みとして、地域ニーズに対応したリカレント教育推進事業を進めておまして、そのプログラムの中で放送大学の科目群履修認証制度「エキスパート」やインターネット配信公開講座の数理・データサイエンス・AI講座を利用させていただくようにと勧めております。放送大学の長年にわたって蓄積された教育資産が地域の生涯教育、リカレント教育、リスクリソング教育に広く生かされるよう努めていきたいと思っております。

また、放送大学の広報には岩手県教育委員会歴代教育長、本日は佐藤一男教育長より祝辞をいただきますが、その他市町村の生涯教育関連部署の方々、NHK盛岡放送局の歴代局長の皆様大変お世話になってまいりました。広い県土の中でどこまで放送大学の名前が浸透しているのか、名前は聞いたことがあってもその内容をどこまで理解していただいているのか、まだまだ確信の持てないところではございますが、県内各地へ出向いて公開講演会や大学説明会を開催し、周知を図っていきたくと考えております。

現在、学習センターには学生のサークル活動の紹介や各種イベントの写真を掲示しておりますので、歴代の所長さん、事務長さんには懐かしい日々を思い出す機会にさせていただければ幸いです。

最後に、本日も列席の皆様から引き続きのご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、所長、客員教員、事務長、職員一同、岩手学習センターの発展に力を尽くすことをお約束して、開設30周年記念式の挨拶とさせていただきます。

2023年11月23日



# 放送大学岩手学習センター開設30周年記念式 祝辞

岩手大学長 小川 智

放送大学岩手学習センター様が開設30周年を迎えられましたこと、心よりお祝いを申し上げます。この日を迎えることが出来たのも、ひとえにセンター所長はじめ教職員の皆様方のご尽力の成果とお慶び申し上げます。

開設当初の岩手大学ミュージアム本館から現在の岩手大学図書館へと学習センター活動の場所は変わりましたが、同じキャンパス内での深く長いお付き合いを継続していただきありがとうございます。

平成10年11月、放送大学と岩手大学との間で単位互換協定が締結され、今年で25年を迎えます。岩手大学では、単位互換科目として教養教育科目及び専門教育科目併せて30単位までを卒業単位とすることを認めており、この25年間に単位互換制度を利用した特別聴講学生は、延べ約2,800名となります。外国語科目を中心とした単位互換科目を卒業認定の科目として利用し、数多くの学生が卒業しております。

また、学校図書館司書教諭を目指す学生も、延べ約300名が放送大学の集中科目履修生として、資格取得を目指し夏季休暇中に受講しています。一方で、放送大学岩手学習センター様が開講する面接授業には、岩手大学からも講師派遣を行っており、開講はすでに延べ700講義を超えています。

岩手大学には入学のための学力試験がありますが、放送大学には無く「学びたい人が、いつでも、どこでも、学べる開かれた大学」であり、広い年齢幅で学修意欲の高い学生が多く在籍されています。放送大学生からは岩手大学の学生のみならず、教員にも多くの刺激をいただいております。

現在、マルチステージの人生モデルとして生涯学習に加え、リカレントやリスクリング教育が注目され、多くの大学や大企業、教育産業での取組が活発になってきています。私が代表を務めています、いわて高等教育地域連携プラットフォームでも「地域に貢献する優れた人材の育成と地域への還元」「高等教育機関がもつ専門性や特色がより一層生かされる地域づくり」を目指し議論をすすめており、学び直しによる人材育成に加え、学びを通じたwell-beingの実現を目指しています。放送大学岩手学習センター様にもメンバーとして参画、協力をいただいております。

岩手大学は、よりよい未来を創造する「地域の知の府」「知識創造の場」として、地域に頼られ、尊敬され、愛される大学を目指しています。今後も生涯学習の中核的機関である放送大学岩手学習センター様と連携をとりながら母体校としての役割を果たし、生涯学習やリカレント、リスクリング教育という学び直しの観点から、共に地域の発展に貢献したいと思っております。

最後に、放送大学岩手学習センター様が今後も、40周年、50周年と末永く、高等教育機関としてご発展されることを祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は開設30周年、誠におめでとうございます。

2023年11月23日

# 放送大学岩手学習センター開設30周年記念式 祝辞

岩手県教育委員会教育長 佐藤 一男

放送大学岩手学習センター開設30周年記念式の開催に当たり、一言お祝いを申し上げます。

この度、放送大学岩手学習センターが、開設から30周年を迎えられましたことに心からお祝いを申し上げます。

放送大学岩手学習センターは、平成5年の開設以来、大学卒業を目指す方や教養を身につけたい方、興味のある分野を学びたい方など、延べ2万人が入学され、現在は700名を超える学生が在籍し、若者から御年配の方まで幅広い年齢の方々が学ばれているものと伺っております。

これまで30年の長きにわたり、多くの方々の学習機会と学習環境の整備に御尽力されてきた関係者の皆様方に対しまして、深く敬意を表します。

令和4年8月に示された第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論では、人とのつながりの希薄化や、困難な立場にある人々などに関する課題が深刻化するなど、急速な変化を続ける現代社会において、生涯学習・社会教育の果たす役割の一つに「ウェルビーイングの実現」が示されました。

身体的・精神的・社会的に「良い状態」とされるウェルビーイングを実現させるためには、学びあいや助けあい、励ましあいなど、相互に支えられながら一人ひとりが主体的・継続的に学ぶ生涯学習の推進を図ることが必要であり、放送授業やオンライン授業を始めとした多様な学習形態や学習プログラムを提供する貴センターの取組の重要性が高まっているものと認識しております。

本日の記念講演では「ウェルビーイングのための生涯学習のすすめ」と題して、放送大学長の岩永雅也様が御講演されるものと伺っております。御参集の皆様にとりまして、全ての人のウェルビーイングを実現する、共に学び支えあう生涯学習・社会教育に向け、自己実現を図る生涯学習に取り組む契機となりますことを御期待申し上げます。

結びに、放送大学岩手学習センターの益々の御発展、御参集の皆様、関係者の皆様の御健勝を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

2023年11月23日

# 放送大学岩手学習センター開設30周年記念事業

岩手の地に生涯学習と高等教育の場を提供する使命を受けて平成5年に岩手学習センター（当時：岩手ビデオ学習センター）は誕生しました。30周年という節目にあたり、学びたいすべての人に開かれた大学として、「地域に貢献し続けたい」という願いを込め、また学生とセンター職員が共に30年を振り返り、今後も共に歩んでいきたいという気持ちを込め、以下の記念事業を実施しました。

## 1. 開設30周年記念式・記念講演会

2023年11月23日（木・祝）放送大学岩手学習センター大講義室

記念式 13：20～13：50

式次第 1. 開会

2. 所長挨拶 現所長 西崎 滋

前所長 橋本 良二

3. 来賓祝辞 岩手大学学長 小川 智 様

岩手県教育委員会教育長 佐藤 一男 様

4. 閉会

記念講演会 14：00～15：30（岩手県教育委員会後援）

「ウェルビーイングのための生涯学習のすすめ」

講師 放送大学 学長 岩永 雅也

## 2. 開設30周年記念公開講演会

○2023年7月29日（土）14：00～15：30

イーストピアみやこ（宮古市・宮古市教育委員会後援）

「ウェルビーイングとフローのポジティブ心理学」

講師 岩手大学名誉教授／放送大学岩手学習センター客員教授 松岡 和生

○2023年8月20日（日）13：30～15：30

放送大学岩手学習センター大講義室

「開設30周年の期に「災害」とどう向き合うかを考える

～自然災害 ウイルス 産廃 戦争」

講師 岩手大学名誉教授／岩手学習センター第5代所長 齋藤 徳美

○2023年9月1日（金）13：30～15：00

ビッグルーフ滝沢小ホール（滝沢市教育委員会共催）

「ゲーム・ネット依存について」

講師 岩手医科大学医学部神経精神科学講座／

岩手医科大学附属病院児童精神科 内出 希

○2024年1月27日（土）14：00～15：30

一関文化センター小ホール（一関市、一関市教育委員会後援）

「改めて考える情報セキュリティ」

講師 岩手大学情報基盤センター准教授／

放送大学岩手学習センター客員准教授 川村 暁

○2024年2月4日（日）13：30～15：00

放送大学岩手学習センター大講義室

「後藤新平と関東大震災－衛生という観点から」

講師 東北大学大学院法学研究科教授 伏見 岳人

### 3. 名誉学生顕彰記念額作成・設置（視聴学習室）

### 4. サークル等活動発表展

2023年10月14日（土）～12月24日（日）

展示場所：岩手学習センター3階、4階廊下

参加サークル：放送大学岩手学友会、短歌同好会、岩手漢文同好会、英語サークル、  
放送大学岩手同窓会

### 5. 岩手学習センター30年のあゆみ写真展

2023年11月21日（火）～12月24日（日）

展示場所：岩手学習センター4階廊下

### 6. 本記念誌の発行



## 開設30周年記念式



西崎滋 所長挨拶



佐藤一男 岩手県教育委員会教育長祝辞  
(代読 小澤則幸 岩手県教育委員会事務局  
生涯学習文化財課総括課長)



橋本良二 前所長挨拶

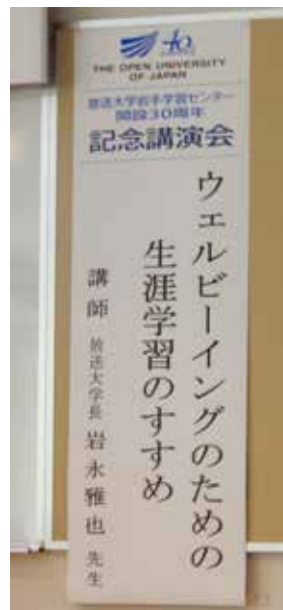


小川智 岩手大学学長祝辞

## 開設30周年記念講演会



講師 岩永雅也 放送大学学長



開設30周年記念式・記念講演会記念撮影



## 名誉学生顕彰記念額



「名誉学生顕彰記念額」前にて  
岩永学長・西崎所長・名誉学生と記念撮影



「名誉学生顕彰記念額」(視聴学習室)

## サークル等活動発表展



## 開設30周年記念公開講演会



講師 松岡和生 先生



講師 齋藤徳美 先生



講師 内出希 先生



講師 川村暁 先生



講師 伏見岳人 先生



## 目 次

# 放送大学岩手学習センター開設30周年記念誌

挨拶（開設30周年記念式より）	岩手学習センター所長	西崎	滋
祝辞（開設30周年記念式より）	岩手大学学長	小川	智
祝辞（開設30周年記念式より）	岩手県教育委員会教育長	佐藤	一男

放送大学岩手学習センター開設30周年記念事業

### 目次

---

放送大学岩手学習センター沿革	1
----------------	---

---

放送大学岩手学習センター開設30周年に寄せて 寄稿	
歴代所長 福井 正明	3
齋藤 徳美	4
橋本 良二	6
学生・卒業生（五十音順）	8

---

資料 学生数の推移	17
市町村別卒業生、修了者数の推移	19

---

歴代イーハトーブ表紙イラスト	20
----------------	----

---

編集後記



# HISTORY

## 放送大学岩手学習センターの沿革

昭和56（1981）年	6月	放送大学学園法（昭和56年法律第80号）公布・施行
	7月	放送大学学園設立
昭和58（1983）年	1月	放送大学設置認可
	4月	放送大学設置
昭和60（1985）年	4月	学習センター（群馬・埼玉・千葉・東京第一・東京第二・神奈川） 学生受入れ開始、放送による授業開始
平成5（1993）年	4月1日	放送大学岩手ビデオ学習センター設置 （岩手大学に仮事務所設置）
	5月28日	第1代 鬼澤 貞 所長就任（～H10.3.31） 事務所開き（除幕式）
	9月14日	岩手ビデオ学習センター開所式・祝賀会
	10月2日	初の入学者のつどい開催
平成6（1994）年	1月20日	アレン国際短期大学と単位互換協定締結
	2月1日	機関誌「イーハトーブ」創刊（年2回発行）
	6月24日	岩手地域学習センターと名称変更
平成10（1998）年	1月	CSデジタル放送による全国放送開始
	4月1日	第2代 関本善則 所長就任（～H15.3.31）
	4月9日	岩手学習センターと名称変更
	10月1日	全科履修生受入れ開始
	11月27日	岩手大学と単位互換協定締結
平成11（1999）年	10月29日	岩手大学附属図書館との合築棟起工式及び祝賀会
平成12（2000）年	9月25日	岩手大学附属図書館との合築棟竣工
	10月10日	新棟岩手学習センター利用開始
	11月21日	岩手大学附属図書館との合築棟竣工記念式典
	12月21日	盛岡大学と単位互換協定締結
平成13（2001）年	6月15日	岩手学習センター水沢校開設に係る調印式
	6月30日	岩手学習センター水沢校開校式
平成14（2002）年	4月1日	放送大学大学院修士課程学生受入れ開始・放送による授業開始
	6月14日	岩手学習センター釜石校の開設に係る覚書締結式
	6月30日	岩手学習センター釜石校開校式
平成15（2003）年	4月1日	第3代 福井正明 所長就任（～H18.3.31）
	11月22日	岩手学習センター開設10周年記念祝賀会
平成16（2004）年	3月30日	岩手学習センター開設10周年記念誌発行
平成18（2006）年	4月1日	第4代 中嶋芳也 所長就任（～H22.3.31）
	6月22日	放送大学附属図書館所蔵コレクション展 （県立図書館～6月28日）



平成19（2007）年 5月 ラジオ放送授業ネット配信開始  
 平成20（2008）年 4月 テレビ放送授業ネット配信実験開始  
                   11月 ネット上の学習支援「システムWAKABA」運用開始  
 平成21（2009）年 4月1日 学部・大学院の再編（学部はコース制へ）  
                   11月22日 岩手学習センター二戸校の開設に係る調印式  
                           岩手学習センター二戸校開校式  
 平成22（2010）年 5月1日 本部学生サポートセンター設置  
                   6月5日 第5代 齋藤徳美 所長就任（～H27.3.31）  
 平成23（2011）年 10月1日 BSデジタル放送（全国）開始  
 平成25（2013）年 4月1日 教養学部情報コース及び大学院修士課程情報学プログラム設置  
                   10月18日 岩手学習センター開設20周年記念式  
 平成26（2014）年 3月31日 岩手学習センター開設20周年記念誌発行  
                   10月1日 放送大学大学院博士後期課程学生受入れ開始  
 平成27（2015）年 4月1日 第6代 橋本良二 所長就任（～R2.3.31）  
 平成30（2018）年 4月1日 岩手学習センター視聴学習室内Wi-Fi環境整備  
 令和 2（2020）年 4月1日 第7代 西崎 滋 所長就任  
 令和 3（2021）年 4月1日 岩手学習センター釜石校移転（青葉ビル1階）  
 令和 4（2022）年 7月 Web単位認定試験導入  
 令和 5（2023）年 2月 岩手学習センター内Wi-Fi環境整備  
                   11月23日 岩手学習センター開設30周年記念式・記念講演会



## 三〇周年に寄せて

第3代所長 福井 正明

放送大学岩手学習センターには、関本所長の後任として平成十五年から三年間、お世話になりました。

その赴任した年が、ちょうど創設十周年でしたから、もう二十年前になります。そのときも、記念式典の催し、記念誌の発行などで忙しかった記憶があります。

当時のきまった仕事は、放送大学での会議に年数回の出張、期末試験の統括、学習センターで行なう対面授業の講師以頼、たまに放送授業の一部を頼まれ、放送大学のスタジオでのビデオ撮りなど、体はあまり忙しくありませんでした。

ただ、常に気にかけていたのが学生募集で、年に何度か事務長と岩手県内を廻っていました。少しでも受講数を伸ばすため、岩手大学の学生に放送大学の単位互換科目の増を認めてもらったのも、その頃でした。

それでも、岩手学習センターの学生数は、頭打ちで伸び悩んでいました。それで、私自身も、個人的に科目履修生の登録をしました。

そして、学習センターを辞するときには、正式に学生として登録し、美術史を学び直しました。自宅で衛星放送を受講し、岩手学習センターで期末試験を受け、宇都宮学習センターに卒論指導を受けに通いました。

卒論は、還暦過ぎに訪れたイスタンブールで出会ったアヤ・ソフィア聖堂に惹かれ、ビザンティン美術の内容でした。

卒論指導の教授から、六世紀の歴史家の残した著書を、必ず読むように薦められたのですが、邦訳書がないので翻訳ソフトと格闘しながらの苦勞でした。

七十才で卒業にこぎつけましたが、今では、その卒論を書いた時から、新しい人生がはじまったように思います。

四年前、伴侶を亡くし、脳梗塞を患い、今は八十五歳の独居暮らしをしておりますが、実は、手もとに山ほど残る卒論の資料を元手に、この十年は、本の原稿書きに忙しい時を費やしています。

九年前にビザンティン美術の「モザイク画の女たち」いう文庫本を出しましたが、この本は岩手学習センターの図書室にもあると思います。

四年前に「巷の三代記」を、一昨年暮れに「大帝の血脈・その陰謀と十字架の果てに」という本をアマゾンから出し、昨年の年末に、その続編を上梓しました。

こうして、独居の寂しいはずの老後に、本をつくる仕事に時を忘れて夢中になれるのも、定年後に学び直す機会を与えてくれた放送大学のリカレント教育のお陰と、心より感謝しています。



## 5年間の所長の年月を思い返して

第5代所長 齋藤 徳美

2010年6月から2015年3月まで、岩手学習センター所長を務めさせていただいた。はや9年余が過ぎ、「加齢性記憶みだら喪失シンドローム」の進行も自覚せざるを得ない昨今ではあるが、在職中に印象強く残っている事柄を思い返してみたい。

### 1、所長特別セミナーの開催と自然災害の頻発

所長の職務の一つは、これまでの研究者生活の成果をも踏まえて、中身の濃いゼミを行うことである。岩手大学在職時代はノルマに追いかけるのがとくの日々であったが、放送大学では、少しは心にゆとりを持てるようになり、所長特別セミナー「岩手の大地に抱かれて生きる」と題する6回のゼミをじっくりと準備した。

ところが、2011年2月に第1回「岩手火山との共生12年」との火山防災の講義を予定したところ、1月に新燃岳で噴火が始まり、第3回「岩手・宮城内陸地震に学ぶ地震防災」との講義の前にニュージーランドで発生した地震で多くの日本人留学生が命を落とし、そして3月6日に第5回「三陸の宿命、津波から身を守る」との講義の直後3月11日に県内でも6千人余の犠牲者を出す東日本大震災が発生した。講義と災害の発生の符合に因縁めいたものを感じ、最終回の「県境不法投棄産廃との格闘10余年」は1年後に延期することになった。延べ500名近くの聴講された学生さんに感謝すると共に、改めて、自然の息吹きである自然災害に「畏怖」と「畏敬」の年を抱かねばならないと痛感する。

### 2、東日本大震災復興への取組

既に大学を定年で退職した身、復興の取組は体力も気力も旺盛な若手に委ねるべきと思う一方、津波防災に関わりながら6千余の大きな犠牲を出したことに忸怩たる思いを抱く逡巡の中で「岩手県東日本大震災津波復興委員会・総合企画専門委員会」の委員長として、県の復興計画の立案から進捗管理にあたることになった。現地調査や会議で頻繁にセンターを離れ、所長室で行政との打ち合わせなどを行うことも多く、事務長さんを初め職員の方々には多大なご迷惑をおかけした。

放送大学の学生さんは、様々な職業に就き社会との関わりも深い。発災以前から大学で学んだことを社会に生かすべきと檄を飛ばしていたが、震災復興はまさにその実践の機会でもある。復興の現状と課題についてのゼミの開催や現地視察などの機会をつくり、教訓を生かすよう尽力したつもりである。

### 3、学友会の活性化、観桜会

大学の価値は、知識の習得と共に、共に学ぶ仲間との交流で豊かな人間性を育むことであるが、放送大学ではその機会は多くはない。面接授業や単位認定試験の際にしか顔を合わせる機会がない方も多く、学友会の活動などに積極的に顔を出し、交流を後押しした。

センター前に立派な桜が咲き誇るという環境の中で、手をこまねいているのは何とももったいない。岩手大学からは、日中の宴会はいささか・・・せめて「放送大学観桜会」と立て看板をといた困惑の声もあったやに聞かすが、サイトーが所長では仕方ない？と容認いただき、4

年間桜の下で語り合うことができた。楽しい思い出である。

有能な佐々木浩、篠村幸和両事務長には右腕として助けていただいた。また、不安定な身分にもかかわらず、後藤周悦、松橋亜希子、中島香緒里、木村葉子、菅川恵梨、菊池由梨、及川裕子、星朋子さんらにはセンターの運営に尽力いただいた。何とか所長の任務を遂行できたのは、皆さんのおかげと改めて感謝するのみである。

末筆ながら、小生は開設40周年の場に接することは困難であろうが、本センターが今後もその役割を果たし続けることを祈念申し上げる。

## 輝く星座

第6代所長 橋本 良二

岩手は広いと、みんな言います。県を縦に貫く北上山地の北端は、安家森、遠別岳を経て平庭高原に至るあたりで、そこから北は瀬戸内川に沿って、九戸、軽米の丘陵が青森県境まで続きますが、県北のこの地方は、寒冷な気候と畜産業が盛んなことから、北海道とよく似ています。一方、北上山地の南端は、独立峰の室根山から東に、南に広がる低山帯で、宮城県境に近づくとともに海にも近くなり、黒潮が北上する海岸近くではヤブツバキが自生しますので、冬の寒さが穏やかな暖温帯域です。

こんな広い岩手ですので、各地から老若男女さまざまな学生が、岩手学習センターにやってきます。私にとって、学生との接点は、主に学友会の活動を通してでした。学友会は、所属学生が交流を深めるための親睦団体で、「卒業を祝う会と新入学生の集い」、「図書館前芝生での観桜会」、「岩手大学学園祭と同時開催の学友祭」、また折々の「学生交流会」など、手作り感のある活動がおこなわれていました。ふだんはセンターに来ない学生も、行事には見えますので、多くの学生とゆっくりと話せる、たいへんよい機会を与えてもらいました。

学生の多くは、盛岡あるいはその周辺に暮らす方ですが、なかには沿岸や、県北、県南からの学生もいます。学生と話すときは、私は、きまっとどちらからですかと尋ねます。いきなり失礼かなとも思いましたが、私にとっては重要で、大いに関心がありました。学生が暮らすその場所の、自然や土地柄は、その場所に長くいた人しか語れない、私にとって新しいものがあるからです。こうして始まった、学生たちとの対話のなかで、それまでの大学勤めではほぼ知る事のなかった、実にすばらしい、キラリと光る社会人学生がいることに何度も気づかされました。

Aさんは、子供の頃、診療所から、助産婦さんを乗せた馬そりが、カンテラを下げて慌ただしく出て行くのを何度も見ていました。昔は自宅での出産が普通でしたので、産婆さんは“取り上げ親”で、地域の誰からも慕われ、彼女曰く“偉い人”に映ったそうです。高校を出て国立大学への進学を果たしますが、大学には行かず、看護専門学校の道を選びました。その後は看護師、保健師として、地元で健康福祉の仕事に携わることになりました。職務は、喫緊の課題を多くかかえ、これまでのやり方では対処できません。放送大学への入学は、必然でした。学部卒業後は、大学院修士課程に進みさらに専門を深め、学位を得ています。

次にBさんについてですが、彼は山あいの田園地帯の出身です。昔から農家の庭には冷害に備えて救荒作物として柿の木を植えましたが、彼は、秋遅くなると庭にカラスがやって来て、カキの実をつついては池にポチャンと落とす、それを飽きずに見ていたそうです。高校卒業後は地元に残り家業を継ぐことになりました。実家が世話役を買って出る家系だったからか、本人の実直な人柄に周囲の信望が厚かったからか、集落の青年リーダーを経て、議員になりました。過疎化が止まらず、自治体消滅すらささやかれるなかで、自身、しっかり素養を身につけ、確かな道を探らなければなりません。放送大学への入学には、背水の陣の感がありました。



た。専門は社会科学分野でしたが、地域の伝統文化の掘り起こしや継承にもたいへん熱心に取り組んでいました。

広い岩手には、キラリと光る学生が実に多いことか。私が知ったのは、ほんの一部に過ぎません。こうした学生たちと接していて、一様に強く感じたことは、それぞれが地域社会とのかわりをごく自然に大切にしている人たちだったことです。彼らは、学習センターに集う学生に、何か目標のようなものを与えてくれる人たちで、言わばセンターの財産です。そして、私にとっては、今でも忘れえぬ人たちで、岩手の空に輝く星座のようです。

## 30周年万歳！ これからまた続けましょう！

全科履修生 阿部 隆

岩手学習センター30周年おめでとうございます。私は10周年、20周年と岩手学習センターに学籍をおいてきました。この年月は、放送大学に学んだ質と量において、大学と共にある人生だったと思います。放送大学、そして、岩手学習センターに学べたことに改めて感謝しています。

社会人として大学に足を運び、ここで得た学びを仕事にも活かせることは本当に良かった。また、放送大学岩手学友会に参加して年代、職業、性別を超えた人たち、岩手大学留学生等との交流で培った経験。毎月第三水曜日に短歌の会（「燦水会」）に参加し、自分を客観視して表現する短歌の世界は、放送大学で始めた得難い経験です。このように放送大学には、職場では広げることができなかった余白があったから、長く続けられた理由だと思います。

さて、放送大学学生生活に忘れられない行事がありました。令和元年3月23日、あの紅白歌合戦が行われるNHK大ホールを会場に行われた放送大学プロジェクト「第九演奏会」です。かねてより「第九合唱」を歌いたいと思っていましたが、本当に実現したことは夢のようでした。岩手大学藝術棟や千葉学習センター等の練習会場で出会った学生との友情は、「第九」を成功させるというきずなを感じました。そして、放送大学教授と学生と一緒に歌い上げた「第九」は、歓喜を分かち合った特別なものでした。演奏会が終わった時の感動と興奮は、一生の宝物になっています。

終わりに、放送大学岩手学習センター30周年を迎えて、素晴らしい年月を送ることができた喜びのうちに、放送大学学生の大学行事に参加する機運がさらに高まることを期待しています。そうすることで放送大学に対する愛着が更に深まり、学生生活が豊かに充実していくと確信するからです。岩手学習センター30周年おめでとうございます。

## 岩手学習センターから始まった 私の生涯学習

全科履修生 伊藤 恵子

県職員として無歯科医地区巡回診療、次いで盛岡と県北保健所に歯科疾患予防を中心に従事、H5年県立衛生学院歯科衛生教員として勤務していた時、通勤中のラジオで「岩手ビデオ学習センター」の開設を知り、仕事に役立てたいと思い「選科履修生」に入学しました。H6年6月に「岩手地域学習センター」に、H10年には「岩手学習センター」にセンターの名称が変更され、その年の2学期には、岩手学習センターでも全科履修生の受け入れが始まり、全科履修生として在籍。H13年3月「発達と教育」、H15年に「生活と福祉」の学士(教養)の学位を取得しました。R6年3月には5つ目の専攻を卒業予定です。

放送大学は、専門的な学びから社会と自然を知る、学びたい科目を自由に選択し、努力次第で④の評価で達成感と満足感も味わえる、気負わずに学べる魅力ある大学です。2つの専攻を卒業してからは、自分の人生を豊かにする興味ある科目を選択して行こうと心に決め、ゆったり楽しみつつ受講しています。

当初は、農学部旧図書館跡地にセンターがありました。今、当時の面接授業を思い起こすと「地球、火星、宇宙、火山や鉱物等」科学的な未来、将来起こりえる自然環境等の講義が豊富でワクワク感で受講しました。帰り路は植物園の四季折々様変わる木々、北水の池の美しい睡蓮等、自然豊かで美しい環境に心が癒されました。

また、所長さんや講師先生を囲み学友達と懇親会や忘年会、研修会等、学生サークルでは「秘湯研究会」の仲間と名湯に浸り、自然と歴史や土地の文化を学び語り合えた事等思い出すと心が豊かになります。

現在居宅介護サービスに携わっています。平成23年3月11日の東日本大震災では盛岡も家財が壊れ、一人暮らしの高齢者の方々は心身共に疲弊し、遠方のご家族の介護負担も高まり、援助方法、心のケア等相談事が増えました。修得した関

係科目の知識、認定心理士で得た技法、話術、傾聴法等が力となり個々の思いに寄り添いアドバイスする事が出来、学びが大いに役立ったと自負しています。本人や家族から「ありがとう」と手を合わせ感謝された時は、ケアマネジャーの責務を果たし力になれたと安堵しました。

働きながら30年間学んできました。その間に県知事から功労賞と「第36回医療功労賞」全国表彰者に推薦され、厚生労働大臣賞も受賞しました。両陛下にご拝謁し当時の美智子皇后様から「岩手県の伊藤恵子様ですね・・・どのような・・・」と直接おことばを頂戴したこの事は、生涯私の忘れられない心に残る尊い宝物となりました。

面接授業にて、東京女子医大「富沢先生の人生100年時代」で習得したこれからの生き方を楽しく豊かに実践してまいります。

こうして学べる環境への感謝と歴代所長様はじめセンターの職員、講師先生方に心からお礼申し上げます。

---

## 放送大学での学びを振り返って

全科履修生 川田 利知子

岩手学習センター、開設30周年おめでとうございます。

ある方が「植物園の中の建物で授業した。」となつかしように語っていました。私は2018年4月に入学しましたので現在の建物からの出発です。6年目が終了しました。

入学の動機は、仕事をしなくなって生活の中心を何にしたらいいだろうと考えたことに始まります。入学し、最初は何のコースを選んだらいいかも分からず、とりあえず「生活と福祉」を自コースとしました。しかし、選択した科目は全く興味本位でした。2、3年と経つうちに心理学に興味をわいてあれこれ勉強しました。勉強することは楽しかったのですが、自分はいったい何を目標しているのか不安になりました。そこで、一応の目標として認定心理士の資格を取ることにしました。

入学したときは3科目、多いときは6科目+面

面接授業の科目選択をしました。あちこち道草をして卒業もしないで、学習することを楽しんでいきます。もちろん試験の時や興味を持ってない科目を選んでしまった時のつらさもありますが、それも終わった後は有意義な経験に変わります。

2023年2学期は、歴史を3科目勉強しました。今までスルーしてきた分野だったのですが、世界への認識が確実に広く深くなりました。私のような高齢者が学ぶ意義がここにあったのだと改めて感じました。そして、今の学びでいいのだと確信できました。

---

## 4分の1の放送大学生

全科履修生 川向 吉彦

30分の8。これが、岩手学習センター設立30年に対して私が放送大学に在籍していた年数である。長いようでも約4分の1に過ぎない。大学に8年も在席しているのかと一般には驚くかもしれないが、放送大学では珍しくもない。むしろ、まだ少ない部類だ。この間、2コースを修了し、今は3コース目を受けている。最も受けているというより、単に籍を置いていると言ったほうが適切であろう。面接授業1科目だけ受け、のんびんだらりと過ごしているからだ。

だが、授業を取らないからと言って勉強できないわけではない。在籍していれば、放送科目はどの教科も視聴することができ、教科書も図書館から借りられる。幸い当学習センターには岩大図書館が併設みたいになっている。図書館には、専門書が豊富にあるし、新聞、雑誌類がそろっている。放送大学生の大きな特典であり、お金をかけずに勉強できるいい環境でもある。

4分の3は知らないのだから、その間、岩手学習センターで何がどうしたかは記録か想像に頼るしかないが、自分の経歴を描く分にはさして問題とはならないだろう。人種のるつぼとまではいかないまでも、放送大学に集う人種も多様である。中でも、職を離れこれから何をしようか、退職後の人生劇場の一つとして選んでいる人も多いよう

に思う。かくいう私も、8年前、退職をあと1年に控え、人生を見直してみようと思い、人間と文化コースに身を置くこととした。

「時間は存在しない」、雑誌「ニュートン」で紹介している本の名前である。まだ読んではいない。宇宙や素粒子の世界では、存在のみが存在し、時間は存在しないらしい。その存在自体も、実体のないもの。どうも色即是空ぽい。さて、人生とか学びとはいったい何なのだろうか。何のために勉強するのか。メタ学習？ ウェルビーイング？ 人間らしく、よりよく生きるためにどうすればいいか。「老いて学べば死して朽ちず」と古人の言葉を思い出しつつ、時間と同じように、学問そのものに意味が存在しないのではないかと思ったりする。学ぶことが単に好きだからではなく、人生を直結した学びの姿があるかも知れないし、ウェルビーイングは、そのことを言っているのかも知れない。今更、「学若し成る無くんば、死すとも還らず」ではなからうが、学問に対する姿勢として、考えさせられる。

少なくとも、私は人生の10分の9は無為に過ごしている。93歳の母が尋常小学校の卒業式に校長先生から「人間至る処青山有り。」と言われたと今も話している。いつ、どこで死ぬかも分からない人生。AIやロボットに、「あなたの今日の予定は、食事は〇〇、勉強は〇〇、運動は〇〇……。」となりかねない現在。ぞっとするね。

そろそろ、「で、何が言いたいのか？」と問われかねないね。「別に…。」

---

## 放送大学で学んで

全科履修生 菊地 泰乃

放送大学岩手学習センター開設30周年おめでとうございます。

私は平成30年の4月に入学しました。入学しての6年間はあっという間で、自分としてはよくやっていると思える充実した日々だったと思います。入学したきっかけは、還暦をむかえるにあたり何かを成し遂げたいという気持ちでいた時に、

テレビのCMで放送大学を知り「これだ！」と思い勉強をしてみたいと思ったからです。新入学者交流会には気合を入れてスーツを着て参加しました。(笑)

岩手学習センターが開設した年に自分で資料を取り寄せていたことを最近思い出しました。その頃の私は子供がまだ小さかったし、資料を見てハードルが高いのではと思い断念したのです。はじめは好きな歴史が学べればいいと思っていましたが、今は卒業を目指しています。

入学してからの一年間は、何もわからず家で勉強し面接授業の時だけ学習センターに行くだけのちょっと寂しい学生でした。2年目に入る時に学友会の役員に誘われ学習センターに行く機会が増え、色んな行事に参加する中で普段では出会うことのない沢山の友達と交流することができました。

途中、コロナ渦で中止になることがありましたが、観桜会、学習交流会、研修旅行、クルミ拾い、学友祭、ボウリング大会、卒業を祝う会など沢山の行事に参加する機会がありました。初めて参加した「アメリカ文学を読む」のゼミのディスカッションでは皆のバラエティに富んだ意見を聞くことができ凄く面白かったです。また30周年記念行事の講演でいらした学長を囲む会は楽しく、学長はとてもフランクな方でした。

学習センターには色んな方が勉強しにいらしています。学ぶことに年齢は関係ないのだと、その姿勢に感心するばかりです。学ぶことが楽しいと思える自分にもびっくりしています。単位認定試験が終わり、さあ次はどんな科目を勉強するかワクワクしています。これからも色んな事にチャレンジしていきたいと思っています。

---

## 放送大学と出会って

全科履修生 熊谷 綱子

今から約二十年前、「図書館司書教諭」の資格を取得しようとして放送大学に入学しました。確か二、三年程で資格は取得しました。並行して、お花のサークルを十年程、今続けているのは、短歌の会



です。十年は過ぎました。なかなか上達はしませんが、仲間に支えられ続けています。試験のある七月と一月の歌会は休みで、他の月は、月一で歌会を活動しています。入った当初は十人以上の仲間が居ましたが、現在は、五人程になりました。我が短歌のサークルも御多分に洩れず少子化になり寂しい限りです。短歌をやって良かったなと思う事は、自分を深く見つめるようになったこと、辞書を細めに使うようになったことなどです。

四年前に、最愛の母を亡くしました。母が亡くなる一年ぐらい前の歌です。

ボタンかけ手を震わせて身支度し  
ディサービスの迎え待つ母

猫を四匹飼っていて励まされます。猫達は私の大事な家族です。

病みし膝を枕がわりに添い寝する  
猫の「チビ太」は深い眠りに

これからも詠んでいきます。

「舞台芸術の魅力」の科目単位認定試験に合格できるように祈りつつ筆を置きます。

最後に、岩手学習センター三十周年おめでとうございます。

---

## 卒業研究のススメ

令和4年度第2学期 心理と教育コース 卒業生

佐藤 敬一

放送大学岩手学習センターの開設30周年に際しまして、心よりお慶びを申し上げます。

さて、去る6月24日のこと、同センターの卒業研究履修ガイダンスで、私ともうお一方が体験談を発表しました。実はこの春の卒業生で卒業研究を行ったのはこの二人だけだったようです。これに少し寂しさを感じたため、この度のタイトルといたしました。

私が卒業研究を履修した理由はいくつかありますが、その中で特に大きかったのは「興味のあることをもっと学びたい!」という欲求です。具体的には応用行動分析学ですが、これは心理と教育コースに直接の科目設定がなく、認知行動療法などの一部と

して扱われたのみでした。そこで、応用行動分析学をテーマに卒業研究を申請しました。

ただし、その過程は順調ではありません。コロナ禍でクライアントが見つからず、直接介入でのデータ取得という当初の計画が難しくなりました。その際に指導担当の岩手大学教育学部の先生からアンケートとインタビューによる構成の示唆があり、それに対しては協力して下さる方々も確保できたため、何とか論文を書き終えられました。正直なところ途中で挫折的な気分を味わいましたが、そこから視点を変えることにより新たな気づきを得ることができました。

実際、卒業研究の完遂には相当な労力が必要です。しかし、自分が学びたいことを突き詰める手段として、これほど自由な機会は他にありません。折角の大学生活ですので、好奇心をマックスに卒業研究を履修するという選択をお勧めします。

ところで、この原稿を書いている10月14日ですが、初めて関東以外にも門戸が開かれた第100回箱根駅伝予選会に放送大学関西が出場しました。この新しい一歩と共に、岩手学習センターの開設30周年を良き節目として、生涯学習に留まらず、岩手の地から豊かな風土と人生経験を背景にした学生達の研究成果が全国に発信されることを願うところです。

---

## 百歳までは通学します!

全科履修生 柴刈 見穂子

放送大学に入学して十四年が経とうとしています。私は勉強が嫌いで高校に行かずに就職しようと思っていました。父の大反対で高校に入学。勿論大学に行く気はありませんでした。ところがここでも父に無理やり受験をさせられてしまいました。しかしわざとではなかったのですが受験は失敗。元々行く気は無かったので特別ショックは受けなかったのですが、数年後妹達が進学し始めた頃から、後悔に近い気持ちが芽ばえました。それでも学歴不足による不便も無いまま歳月が過ぎていきました。その間、父には度々「進学させな

かったから多めに遺したい。」と言われていました。父が亡くなった後にはその旨を書いたものも見つかり、期待にそえなかったのにもかかわらず心をかけてくれていたことに申し訳ない気持ちになってしまいました。しかし人生で一番頭が柔らかかった時に受験を失敗した私が、更に硬くなった頭では社会人入学も出来ないだろうと思い、仕事を早期退職した次の年に入試無しで入学させて頂きました。当初は10年がかりで卒業の予定でしたが、目標を全コース卒業に変え、1コース目を5年かけて卒業しました。娘の卒業式に着せた袴を引っ張り出して着つけ、学位記を頂いたその足で父の墓前に報告をすることが出来ました。その後コースを変えて卒業を繰り返し、今最後のコースです。他人から見ればさぞ教養が身についたと思われるかもしれませんが、単位をとった筈なのに同じ試験を受けても二度と単位はとれないだろうと思います。それでは多くの時間と多少のお金を使った事は無駄だったのかと言えば、決してそうではありません。毎日センターに通うことが、私の単調な生活にリズムを作ってくれ、年に数回千葉を拠点に教科書で知った博物館やお寺等の施設を巡り楽しみながら頭の老化防止もしています。この生活を百歳迄、が今の目標です。

---

## 私と研修旅行

全科履修生 田中 幸雄

私と放送大学との出会いは、ハガキ大の広告を手にしたときから始まる。当時在職中でありながらも、学ぶことへの関心は、学生時代以来薄らぐことはなかった。大学入学に一步及ばなかった残念な思いを胸に秘めながら職業人として社会生活を送っていた。資格試験・登用試験など学ぶことへの挑戦は引くことを知らなかった。大学での学びは私にとって憧れの存在であった。それが目の前の広告ハガキを目の前にして、ぐっぐっと迫ってきたのである。私の学びの炎が燃え上がってきたのである。しかし、35年間勤めている会社との惜別には葛藤があった。放送大学にはまず試し期

間として科目履修生に入学することから始めた。全科履修生への入学は半年後のことである。入学後はひたすら自分の目標に向かっていくのみの日々が続く。

そんな折、普段は学生同士の交流もない中、唯一研修旅行があることを知った。ただし、科目履修生には研修旅行の参加の資格もない。半年後全科履修生として再入学。ようやく放送大学での楽しみを得たと実感している。研修旅行は秋に実施しており、かろうじて参加できたことを覚えている。この年は確か平泉・狛鼻溪に行った。紅葉がきれいで、水面も穏やかであった。ところが舟上中突然の降雨。ビニールシートで覆い、雨を凌いだ。このハプニングは研修旅行の思い出になっている。

この後在籍中は、ほとんどこの旅行に参加している。なぜなら通信制の大学で学ぶ学生間の唯一の交流の場だと思うからである。研修と名の付く旅行であるがゆえに、社会人経験者ならではの学生交流が図られると思われる。

昨年、コロナが下火となった令和5年10月、研修旅行が4年ぶりに実施された。参加者は12名。従来を知っているがゆえにうら寂しさを感じた。もしかして4年前の旧知の学友に出会えるかもしれないと淡い期待を寄せていたが、さすがに4年ぶりという期間は長すぎた。なぜなら4年間という正規であれば学びを終え、卒業している期間であるからである。

学びの合間には、学生交流も大切である。唯一この機会を提供している放送大学岩手学習センターに感謝申し上げ、現在在学中の学生の方々には、ぜひ研修旅行に参加して交流し合い、学生生活の良き一コマになってほしいと願っている。

---

## 放送大学と私の生涯学習

全科履修生 野中 正昭

岩手学習センター開設30周年おめでとうございます。

今回の表題は20周年記念の際に投稿させていた

だいた表題と同じとなります。あれから全科履修生として節目の10年目となりました。あつという間でした。

センター4階から春夏秋冬、目を楽しませる岩手山の悠然たる姿は変わりませんが、私はフレイルを心配する年齢となり、「年々歳々花相似たり歳々年々人同じからず」の心境です。振り返れば、平成4年に週休二日となった職場で、「土曜日は何か生涯学習を」との奨めに遅れること10年目の平成13年に、科目履修生として入学しました。興味があった1科目のみの受講から始まり、平成24年からは全科履修生に編入して、通算の在籍年数24年となりました。こんなに長く学習が続くとは思ってもみない事でした。「継続は力なり」の言葉通りに、力が身についたとは言い難いのですが、期間だけは自分でもよく続いたものだと思います。飽きやすい性分にもかかわらずに続けられたのは、ゼミ、研修旅行、水彩画や七宝焼きなどの講座、漢文サークル、お花見・忘年会などでの楽しい触れ合いに時々参加させていただき、単位修得目標の学習以外に「ホッとするひと時があった事も大きな要因だったのかもしれないなあ」と思い返しています。

最後に現・歴代センター所長を始め職員の方々へは、ご親切・丁寧なご対応、あるいはゴミ一つない清潔な空間やコロナ対策などにより、常に心地よく学習できる環境を提供していただいた事へ改めましてお礼と感謝を申し上げたいと存じます。ありがとうございました。

## 学びで得たこと

令和3年度第1学期 心理と教育コース 卒業生

久道 響子

今回この記念誌の原稿依頼をいただき、私にとって放送大学とはどういった存在なのかを改めて考えてみました。放送大学を一言で表すとすれば、どんな立場の人も取り残さない大学だと私は思っています。病気や障害、年齢や仕事の都合等により一度はあきらめていたとしても放送大

学に在籍し、再び勉強する楽しさを思い出すことが出来たと感じた方は多いのではないのでしょうか。私もその一人です。たくさんの方に支えていただき、時には学友と励まし合いながら自分なりの勉強方法を確立し自信を取り戻せました。

もう一つ私が在学中に感じたことが選べる科目の豊富さと自由さです。私は心理と教育コースに所属をしていました。今までも心理の勉強はしてきたのですが、自分の知らなかった心理学のジャンルを学ぶことが出来たのが新鮮でとても印象に残っています。逆に所属しているコース以外の科目に触れて新たな魅力に気が付く場面もたくさんありました。放送大学で深く広い学習が出来ました。

私は単位認定試験の時期でしか岩手学習センターに伺うことはありませんでしたが、試験前の控室の雰囲気がとても好きでした。自分とは年齢も立場も違う方たちが試験に合格し、単位を取得するために同じ方向を向いているように感じたからです。自分ももっと頑張らないと、と私の中で控室の空気が試験前のモチベーションの一つになっていました。

大学に在籍していた3年半で知識としての教養を養うことが出来たのはもちろんですが、精神的な部分でも成長することが出来たのは放送大学のおかげだと思っています。そしてそのような素晴らしい大学を卒業できたことを誇りに思います。最後になってしまいましたが、岩手学習センター開設30周年まことにおめでとうございました。

## もっと楽しく、もっと長く

全科履修生 三浦 昭雄

退職（65才）と同時に入学しました。知るということ楽しい。教材が送られてくるとわくわくしてページをめくった。

卒業のことは考えなかったのですが、6年間は申請したコースに関係なく好きな科目を勉強した。面接授業に参加した時、みんなが卒業を目指して努力しているのを見て、卒業を目標に申請したコー



スの科目に集中した。

しかし、80才過ぎると勉強していることが、テストの成績につながってこない。4回目の卒業があと二単位のところでつまずき進まなくなった。

(1年半無断休学)

その前から勉強は順調にはいってなかった。震災で家が流され、教材や教科書などすべて失ってしまった。宮古から長男が住む盛岡に居をうつした。(1年間無断休学)引っ越してまもなく腎臓病が発症し、週3回の血液透析をうけることになった。土曜日が透析日なので、楽しみな面接授業をうけることが出来なくなった。

我家には今年小学3年になる孫(女の子)がいます。小学校に入学した時から勉強をみる役目を負わされました。私の部屋は2階にあり、となりの部屋が私と孫の勉強部屋です。夕方4時ごろになると、ランドセルを背負って「べんきょう、勉強」と言いながら階段を上ってきます。母親の話だと手伝いや後片付けだとなかなか体を動かさないのに「時間だよ」というと、さっと立って2階にゆくそうです。宿題をすませたあと「むかし話」などの読書を毎日やっています。勉強中の態度には注意はしますが、おこることはしません。いっぱいほめてやります、大学で学んだことが役立っているのかも。

孫と机をならべたり、卒業生を対象とした「岩手同窓会」に入会し、互いに励ましあう機会を得たことも、長く勉強を続けられた一因かも知れないと思っています。

---

## 放送大学岩手学習センターに学ぶ

全科履修生 三浦 博

30周年おめでとうございます。

私は、20年前に入学させていただきました。勤務に役立てようと、海外に数年留学された女医さんのユング心理学の講演を受講した事で、心理学の奥の深さを学び、さらに、詳しく学びたいと思ったことが、その後、放送大学に入学した動機となりました。講演受講当時は、放送大学の存在

も解らず学ぶ機会をみつけることができないでいました。そのような時に偶然、盛岡から転居してきた後輩から放送大学の試験の為に休暇を取得したいと相談を受けた事で放送大学の存在を知りました。早速、後輩に依頼して放送大学の願書を取り寄せ、入学したのが20年前です。心理学分野は、発達と教育専攻の中にあり、ユング心理学を学ぶことができました。入学当時は、仮設事務所のような雰囲気のある岩手学習センター釜石校を拠点に学んでいました。棚にカセットテープが並べられてあり、その中から、2巻選び、貸出用ノートに月日、名前を記載し借用、そして返却するということを繰り返しながらテープを聴講して、印刷教材を読んで学びました。初めて耳にするテープの講師の声と印刷教材、これが放送大学の学習と思っていました。ところが、盛岡に転居し、岩手学習センターに登校して学ぶ事が出来るようになると、テープを聴講するだけが放送大学の学習ではないことが解りました。学習センター4階での昼時間には、誰からともなく語りが始まり、学生間の雑談等も聞かれ、情報交換も多かったです。昼に多勢の先輩の学生の方々が、科目履修生より全科履修生の方がいいよと、アドバイスして下さる事もありました。30余年沿岸に住んでいたもので、周囲は知らない方々ばかりでしたが、盛岡のにぎやかな肴町を歩いていると、ニコニコ笑顔で声をかけて下さる先輩学生や、学生交流行事に参加する事で、学生間の対人関係を築けたことをうれしく感じました。歳月光陰矢の如く流れ、今でも放送授業を聞き乍ら、星空を眺め沿岸に住んでいた当時に、放送大学の学生として入学し、ユング心理学を学ぶことが出来た事を、この間にように思い出されます。面接授業では、県外の学習センターでの授業も希望し受講しました。放送大学の学問を通して、長崎県、山口県、兵庫県の方々と共に学び、語りあえた事が、現地で豊かに学ぶ面接授業の素晴らしさであり、終生忘れ得ぬ学問であると思います。面接授業先の学友も、目的は同じなので、いつか岩手盛岡での面接授業も希望したいと、話された学友もいらっしゃいました。特に、「人間の探求」コースの面接授業は、今でも一つ一つの業績に感動する内容がありまし



た。放送大学の学友や講師の方々にも面接授業を通して御指導いただき有りありがとうございました。

私はというと、2009年に放送大学に入学し、コツコツと学びを継続しつつ、生活習慣を心がけ、健やかに過ごしております。

---

## 健やかな毎日を過ごすために

選科履修生 村田 光男

日々の暮らしを安全に健気よく、過ごして行くためには、どんな過ごし方が良いのか、くらしの行動と学ぶことについて、思考して行かなければならないと思います。

日常の行動や習慣が肉体的にも、精神的にも関わりがあることから、日々のくらしにつきまして思案し、くらしの重要性を充実しなければと思います。

そのためには、身体から、心理的、社会的健康状態と生活習慣の様子が、検討されなくては、ならないかと思えます。

そう言うことにより次のような、項目事項が考えられまして、くらしに必要で、学ぶことの重要性としても、思考されなければならないと思います。

- 1、適度な睡眠をとる
- 2、朝食を欠かさない
- 3、間食をしない
- 4、禁煙を守る
- 5、適度の体重を保つ
- 6、禁酒あるいは控えめの飲酒に限る
- 7、規則的な運動をする

こう言うことがらを日々の、思案実行し、健気力、生命力を高めることになるよう推進し、項目の充実性を進めることが、必要になることと思えます。

健康で安全に、くらすためには、生活習慣を心がければ良いと言うことにもなります。

学ぶことの重要性そして、交流の重要性にも条件が満たされますれば、意欲が高まることになり

ます。日々の生活くらしに、適切な目標を思考設定することにより、学ぶことの重要性、人との交流が健やかな日々になりまして、毎日が過ごせることとなると思われます。

---

## 岩手同窓会とわたし

全科履修生 森 友江

放送大学岩手学習センター開設30周年、誠にありがとうございます。

放送大学、岩手学習センターの思い出は、私の場合、一番は岩手同窓会の設立に関わったことです。この学習センターでは私だけの経験かもしれませんが。私は平成28年度に学位を取得しました。その後は継続しない、放送大学とはもう終わりだと思っており、また正直、それまで同窓会がないのは岩手だけということを知りませんでした。平成29年の春から同窓会連合会の役員の方と岩手学習センターで同窓会の設立に向け話し合いを進めてきました。私は学生時代には所長室へ入った機会がなく、その時初めて所長室に入り話し合いで超緊張していたことが思い出されます。その話し合いの結果、橋本所長様と佐々木事務長様のご協力のもと、岩手同窓会は平成29年12月10日に全国で最後・49番目に設立されました。岩手同窓会設立に関わりその後、同窓会会長として活動させていただいています。活動を続けてきているのは、私一人の力ではなく、学習センターの所長様・事務長、先生方、事務職員の皆様のお陰です。心より感謝申し上げます。

平成29年度3月から学位記授与式で祝辞を述べさせていただいています。私は人前で話すことが苦手なこともあり、経験を重ねても毎回、ド緊張カミカミで祝辞を述べています。まだ、慣れません。でも、同じ大学を卒業した同士として、会長である間は祝辞を贈らせていただきたいと思えます。

変動する時代の中で常に、学生が学びやすい環境づくりなどサポートをしている学習センターに感謝しています。そのサポートを同窓会会員として少しでもお手伝いしていきたいと思っております。最後に、岩手学習センターの今後のますますの発展をお祈り申し上げます。

## 岩手学習センターでの学び

全科履修生 吉田 寛

岩手学習センターが岩大（岩手大学）の農学部のはしっこにできた30年前、1年半ほど在学していたことがあります。当時はインターネットもなく、定時にビデオを流して視聴するといったスタイルでした。試験も時間割通りでしたし、記述式が多かったと思います。それから30年ほどして、また入学しました。社会と産業コースに所属し、政治学・経済学などの社会科学を中心に、自然科学、人文科学、教育学、情報など幅広く履修しています。色々な分野の学習ができるのが放送大学教養学部の良い所です。今のコースを卒業したら別のコースで学習を続けるつもりです。

岩大へはバスで通学していますが、岩大へ着くのが9時すぎなので学習センターが開くまで図書館で過ごします。岩大の図書館が利用できるのはありがたいです。図書館の入り口付近にいらなくなった本を誰でも持って行ってもよいコーナーがあって、時々そこから本をもらって来ます。毎週火曜日と木曜日の9時半から15時すぎまで学習センターの視聴学習室で勉強しています。静かで暖かいので集中できます。お昼は岩大の学食でカレーを食べて、中央生協でカフェオレを買います。面接授業もいくつか取りましたが、土曜と日曜がつぶれてしまうのでちょっと大変です。興味のある講義にしぼって参加するつもりです。

放送大学の印刷教材（テキスト）は充実しているし、講義もほとんどが水準以上なはずれがありません。毎年60くらいの科目が新しくなるので、次々と学習したくなる科目ができます。永遠に勉強できそうです。

## 岩手学習センター三十周年記念によせて

全科履修生 吉田 葉子

私が放送大学に入学して今年二十六年目を迎える。この原稿を依頼されていなければ考える事も無かったまさかの年月である。実は、二十周年記念誌にも私の寄稿文が載っている。この文章を書くにあたって、確か保存してあるはずだと捜した。いったいその時自分は何を書いていたのだろうと多少ドキドキしながら自分の書いたものを読んでみた。今より十年も前の自分に出会う機会を得た。今より遥かに生き生きとして多忙だったように思う。二十周年記念誌には懐かしい学生の方々のお名前があり、歴代の所長さん、事務室長さんのお名前があった。私の脳裏にはお世話になった事務室の職員の方々の顔が浮かんできた。皆様に大変にお世話になってきたことに改めて感謝の気持ちを強くした。

放送大学での学習は知識だけではなく自分の生活に多く根付いているのだ。それは、常々世の中の動きに敏感になり、疑問を持つこと。いろいろな分野にわたり興味を持ち幅が広げられたことに有難くもあり嬉しいことでもある。また、私は短歌同好会発足以来二十年以上関わっている。大変さはあるが、これも放送大学で得られた趣味をはるかに超えた貴重な人生の糧となっている。もうお亡くなりになられたが良い先生との出会い、仲間の方たちとの出会いがあり削りとられない私の宝物となっている。二〇一九年五月に私の歌集『銀の巣』を短歌結社「かりん叢書第三四四篇」より発行する事ができた。その中には放送大学の科目からあるいは面接授業から、新しく知り得た事、ハッとした気付き、とても興味が掻き立てられたこと等々歌の中にちりばめられている。

本当に長い年月を放送大学とともに人生を歩んできたのだと有難く心に刻み御礼申し上げます。

## ■ 学生数の推移

(単位：人)

学生種別	年度 学期	H5		H6		H7		H8		H9		H10		H11		H12		
		2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2		
教養学部	全科履修生	男	0									0	79	146	192	236	259	
		女	0									0	100	168	204	277	316	
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	179	314	396	513	575	
	選科履修生	男	46	132	131	176	203	223	209	243	232	222	208	184	160	162	158	
		女	50	140	154	192	222	258	265	320	314	251	228	182	167	190	177	
		計	96	272	285	368	425	481	474	563	546	473	436	366	327	352	335	
	科目履修生	男	127	92	89	83	90	73	96	83	113	122	97	60	73	77	91	
		女	103	134	127	138	116	109	149	167	150	177	120	97	89	90	68	
		計	230	226	216	221	206	182	245	250	263	299	217	157	162	167	159	
	特別聴講生	男	3	16	3	15	3	13	0	13	3	9	7	3	9	2	7	
		女	3	30	3	36	1	29	1	27	1	18	43	3	3	0	4	
		計	6	46	6	51	4	42	1	40	4	27	50	6	12	2	11	
	計	男	176	240	223	274	296	309	305	339	348	353	391	393	434	477	515	
		女	156	304	284	366	339	396	415	514	465	446	491	450	463	557	565	
		計	332	544	507	640	635	705	720	853	813	799	882	843	897	1,034	1,080	
	大学院	修士全科生	男															
			女															
			計															
修士選科生		男																
		女																
		計																
修士科目生		男																
		女																
		計																
博士全科生		男																
		女																
		計																
計		男																
		女																
		計																
合計		男	176	240	223	274	296	309	305	339	348	353	391	393	434	477	515	
		女	156	304	284	366	339	396	415	514	465	446	491	450	463	557	565	
		計	332	544	507	640	635	705	720	853	813	799	882	843	897	1,034	1,080	

学生種別	年度 学期	H13		H14		H15		H16		H17		H18		H19		H20			
		1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2		
教養学部	全科履修生	男	294	305	323	316	317	302	305	296	304	289	293	278	266	257	253	241	
		女	357	376	409	392	388	370	383	368	376	361	352	340	341	324	337	327	
		計	651	681	732	708	705	672	688	664	680	650	645	618	607	581	590	568	
	選科履修生	男	158	155	139	134	120	109	88	87	109	104	90	91	87	86	90	84	
		女	168	174	153	148	134	145	140	124	166	154	116	120	122	128	97	96	
		計	326	329	292	282	254	254	228	211	275	258	206	211	209	214	187	180	
	科目履修生	男	69	67	85	65	84	74	74	68	60	64	60	59	45	59	37	31	
		女	89	66	72	76	99	96	87	93	66	77	56	69	60	61	41	52	
		計	158	133	157	141	183	170	161	161	126	141	116	128	105	120	78	83	
	特別聴講生	男	10	23	4	4	6	18	5	11	34	29	30	39	41	25	45	12	
		女	4	21	0	6	2	6	4	2	22	32	56	27	56	40	43	6	
		計	14	44	4	10	8	24	9	13	56	61	86	66	97	65	88	18	
	計	男	531	550	551	519	527	503	472	462	507	486	473	467	439	427	425	368	
		女	618	637	634	622	623	617	614	587	630	624	580	556	579	553	518	481	
		計	1,149	1,187	1,185	1,141	1,150	1,120	1,086	1,049	1,137	1,110	1,053	1,023	1,018	980	943	849	
	大学院	修士全科生	男			1	1	1	1	4	4	6	6	8	8	8	8	6	6
			女			1	1	2	2	5	5	4	4	2	2	1	1	1	1
			計			2	2	3	3	9	9	10	10	10	10	9	9	7	7
修士選科生		男									20	24	27	27	23	24	27	25	
		女									18	8	23	26	20	19	20	20	
		計									38	32	50	53	43	43	47	45	
修士科目生		男			31	49	71	60	36	34	8	10	2	10	6	4	14	15	
		女			45	50	67	67	46	43	16	22	7	5	4	5	7	9	
		計			76	99	138	127	82	77	24	32	9	15	10	9	21	24	
博士全科生		男																	
		女																	
		計																	
計		男			32	50	72	61	40	38	34	40	37	45	37	36	47	46	
		女			46	51	69	69	51	48	38	34	32	33	25	25	28	30	
		計			78	101	141	130	91	86	72	74	69	78	62	61	75	76	
合計		男	531	550	583	569	599	564	512	500	541	526	510	512	476	463	472	414	
		女	618	637	680	673	692	686	665	635	668	658	612	589	604	578	546	511	
		計	1,149	1,187	1,263	1,242	1,291	1,250	1,177	1,135	1,209	1,184	1,122	1,101	1,080	1,041	1,018	925	





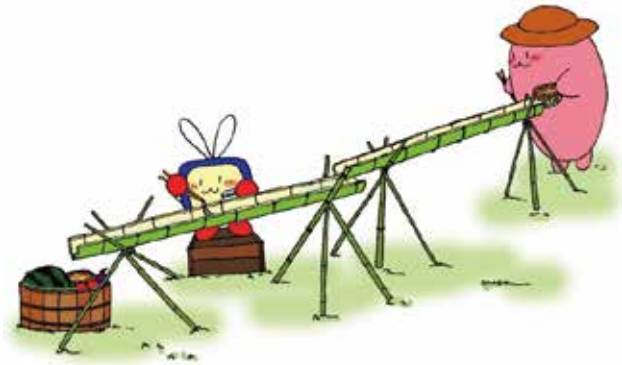




132号 (2014年5月号)



133号 (2014年7月号)



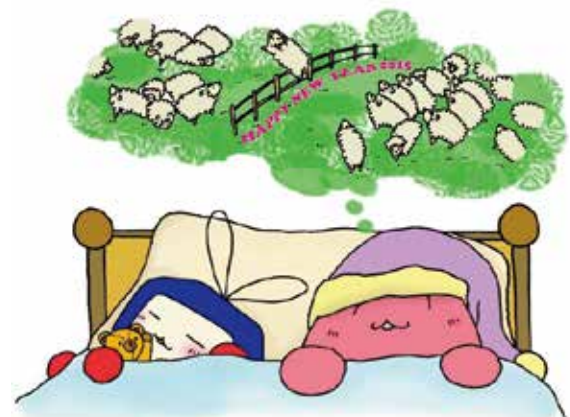
134号 (2014年8月お知らせ版)



135号 (2014年9月号)



136号 (2014年11月号)



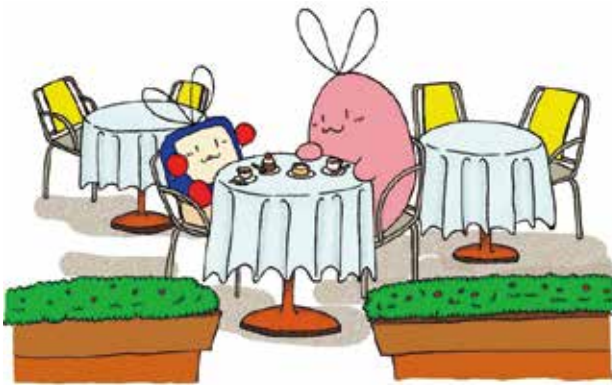
137号 (2015年1月号)



138号 (2015年2月お知らせ版)



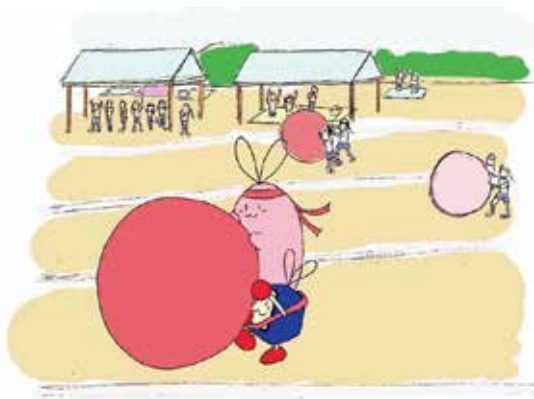
139号 (2015年3月号)



140号 (2015年5月号)



141号 (2015年7月号)



142号 (2015年9月号)

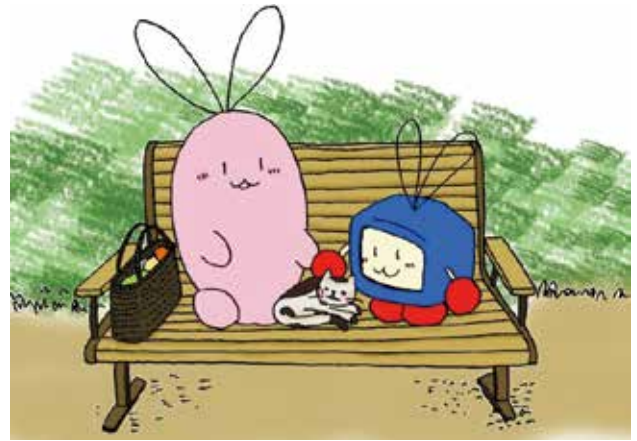


143号 (2015年11月号)





144号 (2016年1月号)



145号 (2016年3月号)



146号 (2016年5月号)



147号 (2016年7月号)

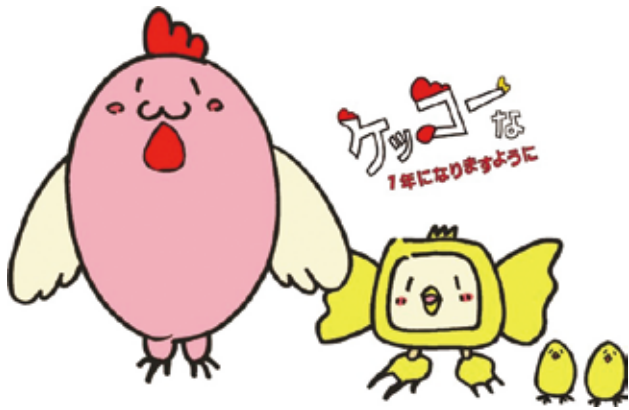


148号 (2016年9月号)



149号 (2016年11月号)

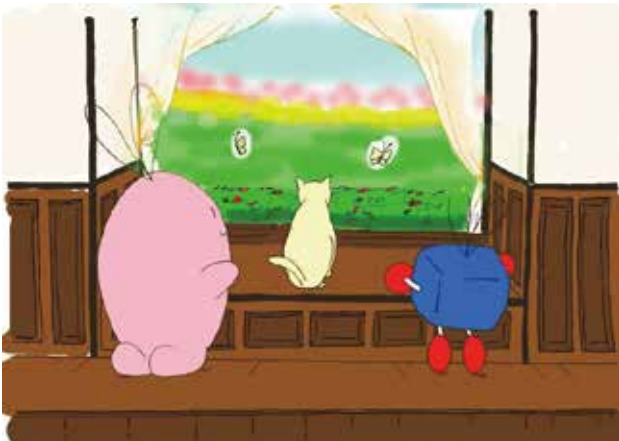




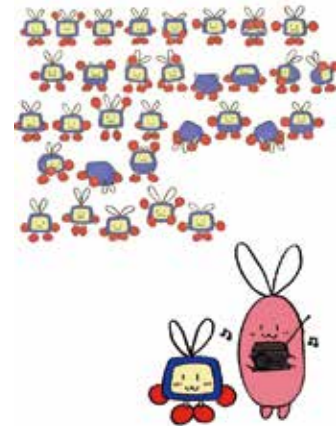
150号 (2017年1月号)



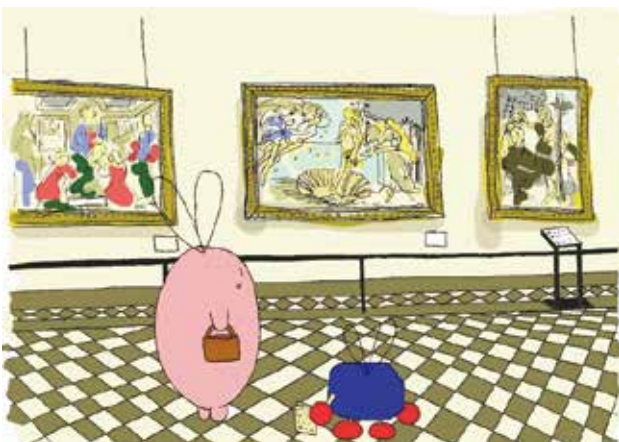
151号 (2017年3月号)



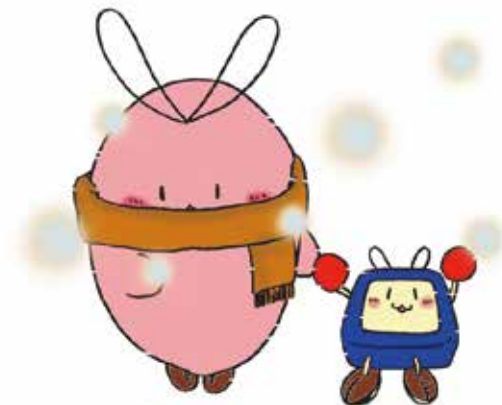
152号 (2017年5月号)



153号 (2017年7月号)



154号 (2017年9月号)



155号 (2017年11月号)



156号 (2018年1月号)



157号 (2018年3月号)



158号 (2018年5月号)



159号 (2018年7月号)



160号 (2018年9月号)



161号 (2018年11月号)





162号 (2019年1月号)



163号 (2019年3月号)



164号 (2019年5月号)



165号 (2019年7月号)



166号 (2019年9月号)



167号 (2019年11月号)



168号 (2020年1月号)



169号 (2020年3月号)



170号 (2020年5月号)



171号 (2020年7月号)



172号 (2020年9月号)



173号 (2020年11月号)





174号 (2021年1月号)



175号 (2021年3月号)



176号 (2021年5月号)



177号 (2021年7月号)



178号 (2021年9月号)



179号 (2021年11月号)





180号 (2022年1月号)



181号 (2022年3月号)



182号 (2022年5月号)  
【ホームパンを作ろう! ①】  
「羊の毛刈り」



183号 (2022年7月号)  
【ホームパンを作ろう! ②】  
「羊毛を染める」



184号 (2022年9月号)  
【ホームパンを作ろう! ③】  
「糸細ぎ」

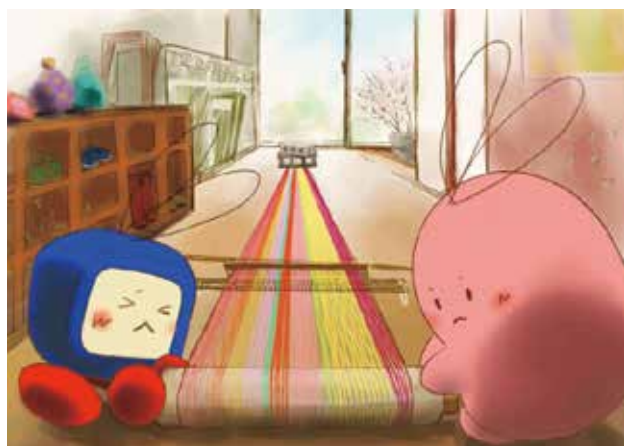


185号 (2022年11月号)  
【ホームパンを作ろう! ④】  
「織り計画」





186号 (2023年1月号)  
【ホームパンを作ろう! ⑤】  
「整経」



187号 (2023年3月号)  
【ホームパンを作ろう! ⑥】  
「機立て」



188号 (2023年5月号)  
【ホームパンを作ろう! ⑦】  
「織り」



189号 (2023年7月号)  
【ホームパンを作ろう! ⑧】  
「織りあがり」



190号 (2023年9月号)  
【ホームパンを作ろう! ⑨】  
「房撚り」



191号 (2023年11月号)

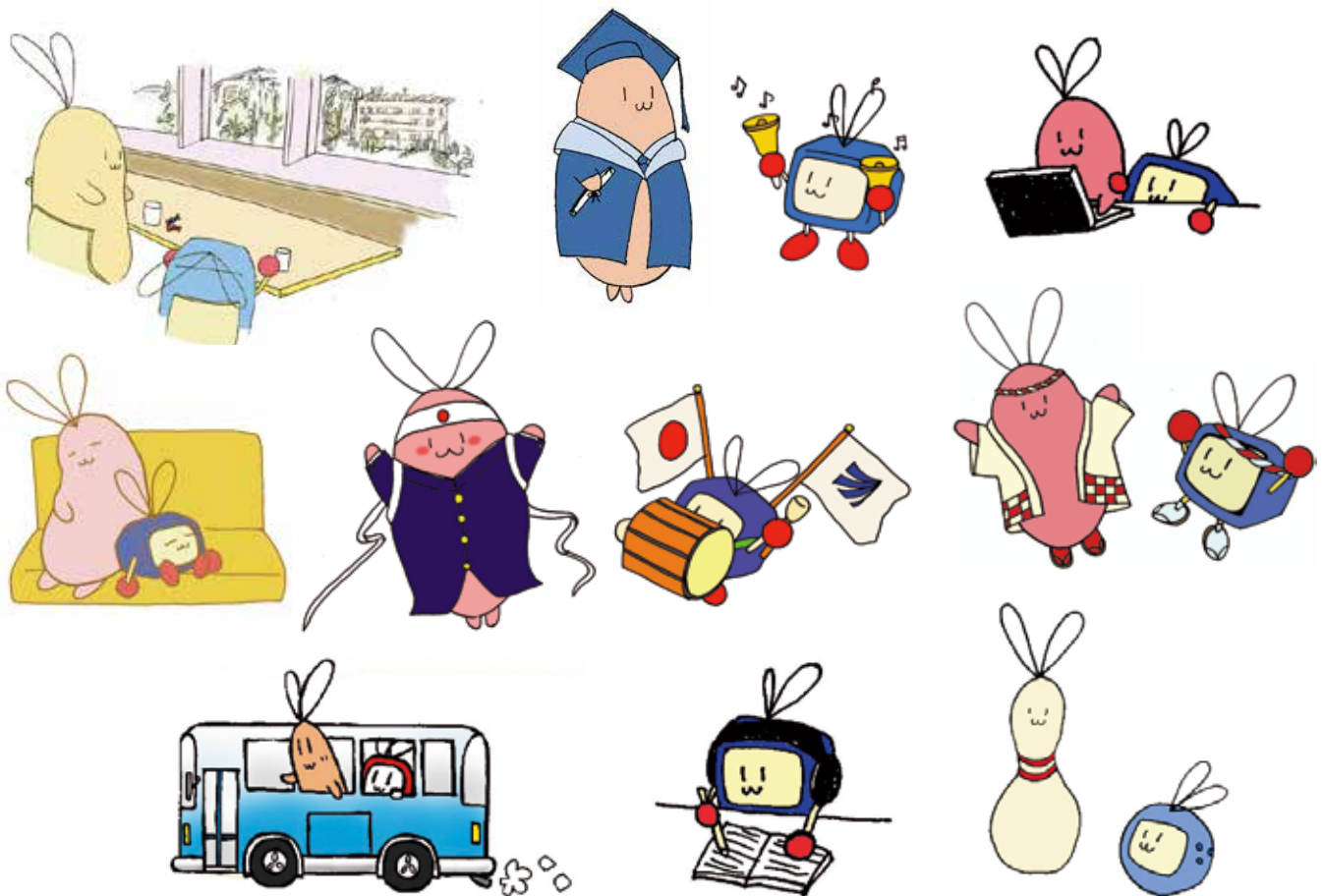


192号 (2024年1月号)  
【ホームスパンを作ろう! ⑩】  
「縮絨」



193号 (2024年3月号)  
【ホームスパンを作ろう! ⑪】  
「お披露目」

歴代イーハトーブ表紙デザインは、開設20周年記念の際に企画した「歴代イーハトーブ表紙デザイン展」に引き続き、皆様に親んでいただきたいという思いから今回も掲載しました。アンテナさん、テレビくんが繰り広げる物語をお楽しみください。当学習センターのキャラクターとして引き続き活躍しますのでよろしくお願いいたします。



アンテナさんとテレビくんは、センター行事でも活躍しています



## 編集後記

1993年（平成5年）に岩手大学の前身である盛岡高等農林学校時代に図書室として使われていた歴史ある建物から始まった岩手学習センターの歴史。2000年（令和12年）には、現在の岩手大学図書館内に移転し、一步一步歴史を刻んできました。

学生や卒業生の寄稿文、および、開設30周年あゆみ写真展、サークル等展示から、コロナ禍前まで学生交流が盛んに行われていたことがよくわかりました。センターから足が遠のいた学生の皆様が、少しでもセンターに足を運ぶ機会になること、また地域への当センターの周知につながればという思いから、この30周年記念事業を進めてまいりました。

来年度（2024年度）からは、面接授業の定員もコロナ禍前に戻ります。多くの学生が学習センターで学ばれること、また学生間の交流が少しでも活性化することを願っています。

また働きながら、介護をしながら、育児をしながらなど多忙な状況でも学習に励んでいる学生の皆様、余暇を楽しみながら学習に励んでいる学生の皆様などすべての学生が、今後も引き続き充実した学びができるように、学習センターは学生の皆様と共に歩んでまいりますのでどうぞよろしく願いいたします。

最後に、記念誌作成にあたり、ご多忙にも関わらず、快く記念誌に寄稿していただきました関係者の皆様方に心から感謝申し上げます。

岩手学習センター教職員一同

西崎 滋

菅原 郁恵・猿ヶ澤庸子・菅川 恵梨

鈴木 宏美・金野明日香・星 朋子

---

## 放送大学岩手学習センター開設30周年記念誌

編集・発行 放送大学岩手学習センター  
〒020-8550 盛岡市上田三丁目18番8号  
(岩手大学構内)

TEL 019 (653) 7414

FAX 019 (653) 7410

発行日 2024年3月31日

印刷 杜陵高速印刷株式会社  
〒020-0811 盛岡市川目町23-2  
TEL 019-651-2110

---



THE OPEN UNIVERSITY OF JAPAN

40<sup>th</sup>  
Anniversary

放送大学は  
40周年



岩手学習  
センターは  
30周年

